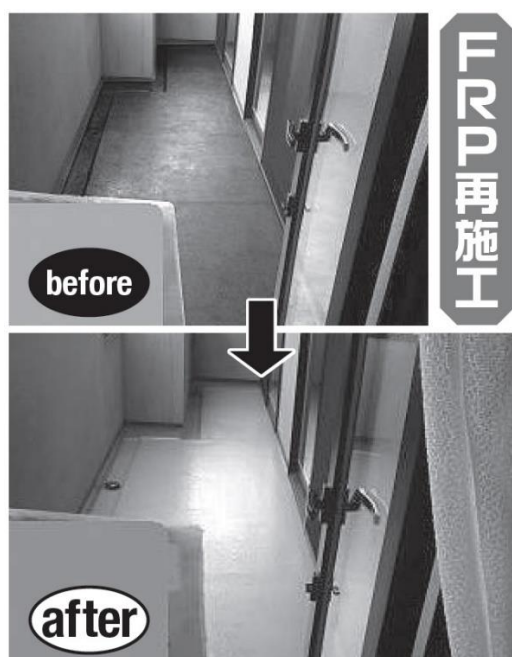




- 1 今すぐ完璧な雨仕舞を！
- 3 **羅針盤** 4つの覚え方
- 5 床下点検と害虫駆除は同時に！
- 6 躍進が考える木材と日本文化 ⑪
- 8 意識を考える

今すぐ完璧な雨仕舞を！



防水効果を総合的にアップ

FRP 防水の保証期間は 10 年ですが、防水層を保護するトップコートの塗り直し（**左写真参照**）などを怠ると、防水効果が薄れていることもあります。

FRP 防水は、当社独自の 2PLY+ドレン部分の「サンドウィッチ工法」が最大の特徴。ガラスマット 1 層の場合では、立ち上がりの塗膜不足や入隅・ジョイント部分の動きが大きい場合に不安が残りますが、ガラスマット 2 層に中塗り、トップコートという手順の場合、入隅部が 4 層になるため安心です。

そして、前述のように、ドレン部分には「サンドウィッチ工法」を採用し、躯体の動きに追従して破断、ひび割れ、剥離を防ぎます。

また、壁体内への雨水侵入を防ぐクラック（前ページ中写真参照）補修をお薦めしています。クラックやサッシ周りの傷みによって壁体内に雨水が浸入し、そのままにしておけば、シロアリや腐朽菌が発生します。特に腐朽菌は、木材の主成分であるセルロースやヘミセルロースなどを分解して、木材を多孔質に変化させ強度を下げます。



上の写真は、躍進の真骨頂ともいえる雨漏り調査・補修作業の現場を写したものです。お隣との隙間が狭く、足場が立てられないので、屋上からのロープによる、いわゆる「ブランコマン」の出動となったのです。

処置における最大のポイントは、コーキング剤を奥まできちんと行き渡らせて埋めることです。そのうえで、補修跡が目立たないようにぼかしながら丁寧に塗装します。複雑なクラックの場合は、外壁に溝を作ってクラックを埋める処理方法も用います。そして、何よりも再発しないようにすることが重要です。

さらに、雨仕舞の一環としてドレン清掃を実施しております（前ページ右写真参照）。もし雨仕舞が不十分ですと、雨漏りをはじめ躯体に対する悪影響など、様々な問題が発生します。梅雨だけでなく台風のシーズン到来前に、雨仕舞を完璧にしましょう。

前号（269 号）でもご案内しております「赤外線漏水調査システム」との併用で、確実な雨漏り調査と完璧な補修を実施しております。少しでも壁や天井にシミを発見したら、今すぐ迷うことなく躍進までご連絡ください。お待ちしております！

4つの覚え方

笠井輝夫

(株)躍進代表取締役会長



羅針盤

読んで覚える

物事を覚える時ほど、それぞれの個性が現れるものはありません。今回は社員や部下を教育するうえで、その特性に合った覚え方の指導の参考にしてもらおうと思い、主に 4 つの覚え方をご案内いたします。1 つ目は「読んで覚える」です。

これが得意な人の代表は俳優さんでしょう。中には台本に書いてある自分のセリフだけでなく、共演者の役割の心情を理解するために、台本 1 冊を丸暗記してしまう猛者もいると聞いています。

これは言語を司る左脳だけでなく、文面の字面（じづら）を 1 枚の絵として認識して覚える、いわゆるカメラアイができる人も含まれるため、右脳も大いに活性化させているはずです。そのため、図画を覚える能力にも長けています。

俳優さん以外の有名人では、アメリカの第 34 代大統領のアイゼンハワー氏は、連合国遠征軍最高司令官時代には事前に記者から渡された質問状をしっかりと読み込んで覚え、完璧な会見を実現したといえます。

我々のビジネスパートナーでも、「LINE やメールに書いて」と指示を出してくれる人がいますが、書面は記録、証拠機能だけでなく、何回も読めるという特性が覚えるのに都合が良いのでしょう。当然これは、社員や部下にも有効な手段です。

聞いて覚える

2 つ目は「聞いて覚える」です。これに関連して、前述のアイゼンハワー大統領は、大統領に就任し、記者会見でイレギュラーな質問をされると、それを聞いて理解するのに手間取ってしまい、読んで覚えるタイプではあっても聞いて覚えるタイプではなかったと言われています。

聞いて覚えるタイプは、これもまた右脳、左脳両方をフル活用しているのですが、頭の中でドラマのワンシーンのセリフを覚えて思い出すような作業をしているのでしょう。確かに名台詞というものは、聴く者に強いインパクトを与えるため印象に残ります。

そして聞いて覚えるタイプの人の口癖は、「さっき聞いたよ」「1 度言えばわかるよ」です。こちらは念のため確認の意味で話しているのですが、記憶力が良いので鬱陶しく感じられるかもしれません。しかし伝える際には、正確に確実に伝えなければなりません。

書いて覚える

3 つ目は「書いて覚える」です。これは昔から多くの先人先哲が指摘しているように、手と脳が連動しているため、書くことによって脳への記憶定着率が高まるからです。

小説家は、自分が手本にしたい作家の作品をひたすら模写するといいます。そうすることで、その手本としている作家の癖を、潜在意識の中に覚え込ませることができ、自然と同じような文章を書くことができるようになるからです。

小学生時代に漢字の書き取りをひたすらやりましたが、そのおかげで手が漢字を覚えており、勝手にスラスラと書いてしまうようになりました。しかしワープロ全盛の現在、この漢字の書き取りの効用は著しく薄れたと言われています。ですから部下には、極力手書きのレポートを書かせるようにしたほうが良いでしょう。

体で覚える

そして 4 つ目は「体で覚える」です。これは言い換えれば五感をフル活用させ、自動的に体が正確に動くようなタイプです。いわゆる「習うより慣れよ」として、実証実験しながら実践実証しているのです。そのため社員や部下には、一通りの説明の後、「とにかくやってみろ」と実践させるのです。もちろん初期の失敗は大目に見ましょう。

私事ながら私は典型的な「体で覚える」タイプです。それに職人さんはこのタイプが多いです。なぜなら五感のフル活用は、正確性を確保するのに最も適しているからです。特に微調整をするときなど、「気持ち削って」などという言葉を用いて最高の仕上がりを実現してくれます。まさに体で覚えるのなせる業なのです。

このように、覚え方にはそれぞれに特徴があり、冒頭に示した通り、社員や部下を教育するうえで、その特性に合った覚え方を実践してください。表立った社員研修に加えて、「タイプ別教育法」を個々に実践していくことで、社員や部下のポテンシャルが花開くことを忘れてはいけません。

床下点検と害虫駆除は同時に！

床下点検が本格化する季節が到来しました。躍進ではこれまで多くの住宅の床下点検業務を実施しています。5 年点検では、床下のシロアリと腐朽菌、排水管系の水漏れ等を確認しています（写真参照）。そしてお風呂場床下の排水管の汚れも発見します。さらにシロアリ以外の害虫に遭遇することもしばしばです。同時に害虫駆除も躍進にお任せください！

躍進は「地域のホームドクター」として、地元を中心に多くの皆様の暮らしを見つめております。幸せなホーム（家庭）を実現するには、その入れ物であるハウス（住宅）が健全でなければなりません。そして、肝心なのは、治療だけでなく、「住まいの予防医学」を実践することです。その中でも、床下点検は、「住まいの予防医学を実践する地域のホームドクター・躍進」の背骨ともいえる部分です。

シロアリや腐朽菌によって、食害・侵食された家屋の耐久性は著しく低下します。耐震強度も下落し、新築当初の性能は保証できません。もし大きな地震等に遭い、家が傾くほどの損傷を受けた場合、その資産価値はゼロになってしまうのです。そのため、床下点検を行い、土台や束などの木材の状態をチェックし、適切な処置を施さなくてはなりません。

床下点検は前述の通り、まず土台や束などの木材の状態をチェックします。点検で蟻害や羽蟻の発生を確認するのですが、浴室などの水周りだけでなく、玄関にも羽蟻が発生しやすく見落としがちになります。また、前述のように様々な害虫もたくさん存在します。

こうした点を満遍なくチェックするのが、「地域のホームドクター」です。そして、「住まいの予防医学」を実践し、地域の皆様のご期待に応えるため大いに活躍してまいります。床下点検からはじまる家の安心・安全は、「お客様第一主義」の躍進におまかせを。ご依頼、ご相談などお気軽にご連絡ください！

躍進が考える 木材と日本文化 ⑪



笠井輝夫
(株)躍進代表取締役会長

木造建築の進化は止まらない

現在、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催中ですが、その目玉となる展示物の 1 つに、世界最大級の木造建築物となる「大屋根リング」があります。建築面積（水平投影面積）は約 6 万㎡で、内径は約 615m、外径は約 675m、幅は 30m で高さは 12m（外側 20m）というとてつもない超大型木造建築物です。

その大きな特徴は、日本の木造建築の古典工法である貫（ぬき）が接合に用いられているところです。言うまでもなく日本の神社仏閣などの建築に使用されてきたもので、これに強度を確保するため現代の最新木造建築工法を用いて利用者の安全を確保しています。

一方住宅業界では、昨年 4 月にアキュラホームさんが、さいたま市に純木造 8 階建ての新社屋を建設しました。アキュラホームさんのホームページから、この本社ビル建設に関する記述を抜粋・要約すれば以下のようなものになります。

1923 年に発生した関東大震災によって、13 万戸が全壊し 44 万戸が焼失しました。そこで露呈したのは木造住宅の脆弱さです。そのためその後は、次々に鉄とコンクリートによる建物が増えていったのです。

しかし大工さんをはじめとする技能者や、建築技術者・研究者のみなさんは、鉄骨・鉄筋建築物の建設を推進すると同時に木造建築の技術向上についても磨き続けて参りました。そして関東大震災から 100 年経った現在、8 階建ての純木造建築ビルが完成したのです。

その建物は、鉄とコンクリートで造られた建物と同等の耐震・耐火性能までに鍛え抜かれた木造技術が結集されたものです。しかも、今後の木造建築の普及のために考案された工法であり、地域のビルダーさんでも手掛けることができ、建築コストを一般的な中大規模建築の 3 分の 2 以下に抑えることができるというものです。

もちろん環境にも優しく、全建築工程の CO₂ 排出量は、鉄とコンクリートで造られた建物の 2 分の 1 以下に抑えられていると言います。こうして日本の木造は、今や時代の最先端となり、万博の「大屋根リング」に代表されるような“木造都市復活”への道筋を作ったのです。まさに木造建築の進化は止まりません。

日本全体で地産地消

こうした建築物に用いられる木材が国産材でなければ、非常に惜しいとしか言えません。しかし以前ご案内したように、集成材をふくめた合板における国産材利用率は、今や 9 割を超えるまでになっています。

それは業界団体の方針転換も大きく影響しております。以前は外材を中心に利用していたものを、スギをはじめとする国産材針葉樹を原料とするようになったからです。これらを踏まえ、躍進の地元である埼玉県では、県産材であるスギやヒノキの「西川材」の育成に注力し、間伐材活動の推進や自然・環境保護、地産地消による木造住宅建築の活性化に力を入れているお話をさせていただきました。

このように地域ごとに特産と呼ばれる木材は全国にたくさんあります。例えば青森県ではアカマツを他県のみなさんにも使って欲しいと、行政を挙げて需要の掘り起こしを行っているというお話も以前にしています。

その青森県ですが、津軽地方（県中央および西部、下北半島）と三八地方（県東部）では、木造在来工法の住宅の土台に用いる木材が違うのです。青森県と言えば青森ヒバを思い浮かべる方が多いと思いますが、三八地方では主にクリ材を用いているのです。

クリ材は非常に硬く加工しにくいため関東ではあまり用いられません。せいぜい腰壁に使われる低度で馴染みが薄い木材です。

しかし三八地方での利用頻度は非常に高く、逆に青森ヒバを用いないのです。これは歴史的な文化背景が関わっています。青森県の三戸（さんのへ）と八戸（はちのへ）、いわゆる三八地方は、元々南部藩（岩手県）の一部だったのです。それが紆余曲折あって青森県に組み込まれたため、他の青森エリアと違う文化なのです。

そんなクリの土台は三八地方に限らず、全国に普及すべきではないでしょうか。現に青森ヒバは全国区の人気を誇っています。つまり、「日本全体を視野に入れた地産地消」を推進するのです。こうすれば国産材は、技術的な進歩だけでなく、市場的な活性化も図られ、硬いクリ材が全国に広まれば、より一層強固な建築物を造ることが可能となります。こう考えると、国産材を用いた木造建築はどこまで進化するのか夢が膨らむ一方です。

意識を考える 住宅コラム番外編

先月号（第 269 号〈2025 年 5 月号〉）の本誌「羅針盤」では、「意識と運命」として、「どこに意識を向けて生きるかが何よりも大切。意識の向きが運命を決める。意識を正しい方向に向けることが大事。意識が行動を決め、行動が成果を生む」などについて述べてきました。

しかし、それについてもう少しご説明したいので、この住宅コラムのページに“番外編”として、いつもとは趣旨を変え、その続きを述べてみたいと思います。

先月号の「羅針盤」でもお話ししましたが、躍進でも採用している、土屋ホールディングスの創業者・土屋公三氏が開発した社員教育プログラム「3KM 生涯幸福設計」では、「能力の差はせいぜい 5 倍、意識の差は 100 倍も違う」と指摘しています。

そして、意識がどこを向いているかで思考回路が変わります。思考回路が変われば行動も変わります。結果もおのずから変わってきます。つまり意識の違いで運命までも変えられるのです。

よく顕在意識よりも、その下に隠れている膨大な大きさの潜在意識のほうが重要だという人がいますが、どちらも変わりなく大事です。ただ潜在意識というのは自分では気付かない部分です。そのため、それを気付かせてくれる第三者が必要なだけなのです。

しかし企業トップになりますと、そうして潜在意識を引っ張り出してくれる人が自分の周りには少ないものです。そのため独学を以って潜在意識を引っ張り出すしかないのです。つまり自問自答を繰り返すのです。これが自在にできるようになればしめたものです。

マズローの欲求 6 段階説をみても、欲求があるから成長していく、つまり段階を上っていくのです。重要なことはその欲を正しい方向に持って行くために、常に意識を明確に正しい方向に向けていることなのです。

正しくない方向の代表は遊びです。それが原因で思考回路が乱れてしまうからです。その時に生じる目的・目標との乖離（かいり）の軌道修正は非常に難しいものです。一度目的・目標へのプロセスが横道にそれると致命傷になることを肝に銘じておきましょう。

株式会社 躍進 本 社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615 東 京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542 URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com	関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン 関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ	事業内容 防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、 ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、 ピンニング、シングル葺き 木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除 及び予防、調湿剤、床下換気 等 塗装工事：各種塗装 外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、 外壁 等診断
--	---	--